

要点
5

床ワックス剤、芳香剤、衣類防虫剤等の使用方法に注意を

解説



■床のワックスがけやカーペットをクリーニングした後は、換気に注意を

床ワックス剤にはトルエンなどの化学物質を含むものがあり、使用後はこれらが室内空気を汚染することがあります。また、カーペットをハウスクリーニングした後にも溶剤が残っている場合があります。

このような場合には換気に努めましょう。また、カーペットなどを戸外で天日干しにするのも良い方法です。

■芳香剤、殺虫剤、衣類防虫剤などの使用方法に注意を

芳香剤や消臭剤を過度に使用すると、これらに含まれる化学物質がシックハウス症候群やアレルギーの原因になる場合があります。

これらを使う時は部屋の広さに応じた使用量にし、時々、換気することが大切です。

また、化学物質を利用せずに活性炭などに臭いを吸着させることで消臭する方法もあります。

蚊、ハエ、ゴキブリなどの退治に使われるスプレー式殺虫剤や蚊取り線香（電子式のものを含む）も殺虫成分である化学物質を室内に拡散させることになるので、使用上の注意をよく読んで使い、閉め切った室内での過剰な使用はさけ、換気に心がけましょう。



衣類の防虫剤の使用量は包装に記載されています。使用量が多すぎると室内空気を汚染したり、衣類の表面に再結晶することがあります。

防虫剤はタンスの引き出しや収納ケースの中など密閉された場所で使いましょう。

引き出しや収納ケースの蓋はピッタリ閉めて、放散した防虫剤成分が室内に拡がらないようにしましょう。

衣類の防虫剤の標準使用量

メーカーによると衣類の防虫剤（パラジクロロベンゼン）の標準使用量は「50リットルの容量に対し80g（10包）」です。段ボール箱など気密性の低い容器に衣類と一緒にいる場合は、使用量がこれより少なくても室内空気を汚染する可能性が高くなります。

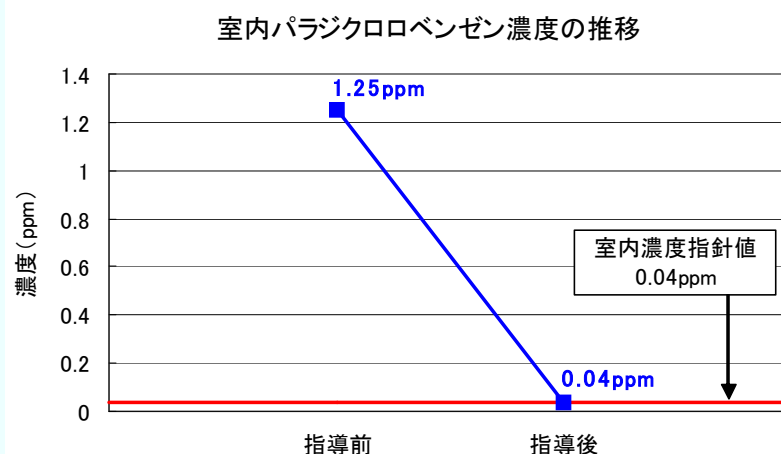
衣類の防虫剤を使用する時は、気密性の高い容器に衣類を入れ、適量を使用することに心がけましょう。

衣類の防虫剤による室内空気汚染の事例

築後3年程のマンションの居住者から、頭痛、めまい、倦怠感、目の痛みなどの症状に悩んでいるとの相談がよせられました。

保健所で調査したところ、シックハウス症候群の原因物質の一つであるパラジクロロベンゼンが、室内濃度指針値（→**要点7**）を超えて検出されました。

測定した室内では、ダンボール製の衣装箱の中にパラジクロロベンゼンの衣類用防虫剤が使用されていました。換気の励行と防虫剤の使用量・方法についてアドバイスしたところ、室内のパラジクロロベンゼン濃度は大幅に低減し、居住者の症状も軽減しました。



コラム

衣類の防虫剤の購入量は必要な量だけ

安いといって、買い置きするのはさげましょう。使用していない防虫剤からも化学物質が発散し、室内の空気を汚染することがあります。

余ったからといって余分には使わない

たくさん使えば、室内にもれ出る化学物質の量も増えてしまいます。標準使用量は容器に記載されていますので、必ず守りましょう。